

とうきょう すくわくプログラム活動報告書

施設番号	66-0288
施設名	愛光大和田保育園
施設所在地	東京都八王子市大和田町5-9-4
法人名	社会福祉法人 愛光学舎

1. 活動のテーマ

<テーマ>

海の生き物について知る（5歳児クラス）

<テーマの設定理由>

昨年度実施した移動水族館で、海の生き物に初めて触れる機会があり、海の生き物への興味や関心を持つ姿が見られた。今回の取り組みを通して海で生きる生き物の多様性や美しさに触れることで感じる感動や驚きまたその特性や環境を知り興味関心を深めていく。生き物が生息する環境まで広げていけるよう活動を展開していく。

2. 活動スケジュール

常設水槽設置（4月～3月）

海の生き物を知ろう（10月8日）

タッチングプール（移動水族館）に向けて質問したいことをまとめよう（10月15日）

海の生き物を五感で感じよう（10月22日）

3. 活動のために準備した素材や道具、環境の設定

【環境設定】海水魚の常設水槽を設置し、日常的にいつでも海水生物を観ることのできる環境を設定した。園内にて移動水族館を実施し直接海洋生物に触れる機会を作る。興味を持ったものを探求し自分で調べることができるよう、図鑑や絵本を保育室内の本棚に加えた。

【素材】図鑑、タブレット、絵本、クレヨン、画用紙

4. 探究活動の実践

<活動の内容>

「常設水槽」では、実際に海の生き物に触った体験から、長期的に観察を続け、生き物の泳ぎ方や動き方、縄張りや寝床、餌の食べる様子や成長の過程など、「きれい」「かわいい」だけではなく生き物の世界を感じ学びにつなげていった。

「移動水族館」では実際に海の生き物に触れたり観察したりすることで、疑問に感じていたことを確認しながら新たな気づきや発見を広げていった。生き物クイズに参加したり質問をすることで、得た情報をもとに新たな気づきを見出したり理解を深める。体験を振り返りながら、海の生き物を思い出し、特徴を意識してスケッチする活動を行う。

<活動中の子供の姿・声、子供同士や保育者との関わり>

好きな海の生き物や知っていることを友だち同士で共有する中で、様々な疑問が生まれ海の生き物に対する興味がさらに湧いていく様子が見られた。図鑑や動画を使い疑問が解決することに喜び納得するとまた新たな疑問を持ち、仮説を立てたり体で生き物の様子を表現する姿が見られた。図鑑や写真・動画を活用して調べる中でイメージを広げ体験への期待を高めていった。調べる中で「ぬるぬるしてそう」「かたいのかな？」などと触り心地やにおい、温度などを想像する様子が見られ、体験への意欲が感じられた。グループに分かれ、事前に立てた「かたいのかな」「ぬるぬるしているのかな」などの予想や疑問をもとにタッチンググループで実際に海の生き物に触れたり観察したりする活動を行った。初めは慎重に様子を見ながらそっと指先で触れる姿や「つめた」「やわらかい」「うみのおいがする」などと驚きや発見を言葉にする姿が見られた。また「動いた」「こっちはかたいよ」などと自分の気づきを友だちに伝えたり、友だちの発見に興味を持って同じように試したりするなど観察を深め、「思っていたのと違った」「思っていた通りだった」と考えを確かめる様子が見られた。

クイズや質問コーナーでは「そうなんだ」「知らなかった」と新たな気づきを得たり、「どうしてなのか」とその場で質問し、新たな疑問を持ちながら学びを広げていく姿が見られた。スケッチでは、描きながら友だち同士で見せ合い「ここはこうなっていたよね」などと気づきを共有したり、「ここはどうなっていたっけ？」とわからない部分を図鑑で見ながら特徴を意識しながら描いていた。



5. 振り返り

<振り返りによって得た先生の気づき>

ただ生き物に触れるだけではなく事前に問いを持つことで、体験の中での気づきや学びがより深まることが分かった。また、自分の疑問をもとに話を聞いたり確かめたりすることで、理解が具体的なものになり、新たな疑問へとつながっていく様子が見られた。見るだけではなく実際に触れることで、その感触から「どうして」「なぜ」がたくさんあふれ出てきていた。また、子どもたちの「なぜ」という質問に対しても大人が直接その場で答えるのではなく、探求が深められるようタブレット端末や図鑑、絵本を環境に配置することで子どもたちの「もっと知りたい」という思いにつながった。